

大里 普及だより

〈〈認定農業者向け情報誌〉〉

発行 埼玉県大里農林振興センター 農業支援部
熊谷市久保島 1373-1
TEL:048-526-2210 FAX:048-526-2494
URL <http://www.pref.saitama.lg.jp/soshiki/k15/>
E-mail k262210@pref.saitama.lg.jp



平成27年 春 ついに！ 農業大学校が熊谷市にやって来る！！

平成27年4月の移転に向けて準備が進む、新しい農業大学校の様子を紹介します。

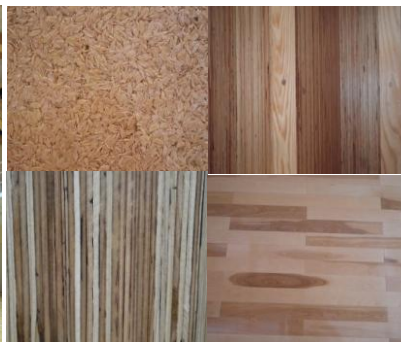
建物は木造建築で、そのほとんどに県産木材が様々な形で使用されており、見ているだけでも楽しくなります。食堂の天井には、JAくまがやから提供されたもみがらを使用したもみがらエコボードが使われており、ご飯を食べる場にぴったりな明るい雰囲気です。

実習棟周辺は、現在、急ピッチで工事が行われていますが、新たにコースが設置される有機農業専攻のほ場には、すでに緑肥用の大豆が栽培されたり、堆肥が撒かれるなど着々と土づくりが進んでいます。

なお、広々とした大教室やゼミ室は、卒業生にもぜひ使っていただきたいとのことです。



① 入学式等が行われる講堂
(募集案内は、6面をご覧ください)



② 壁や天井の色々な木材や
もみがらエコボード(左上)



③ 料理学校の様な加工実習室



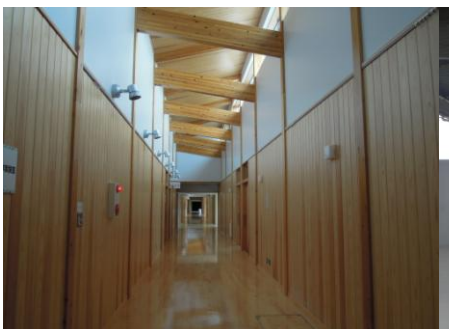
④ 96人定員の学生寮



⑤ もみがらボードを使った食堂の天井



⑥ 大教室の床は、県産檜板！！



⑦ 教室棟の廊下



⑧ 実習ゾーンにある大きな堆肥盤



⑨ 有機農業専攻のほ場
(堆肥を撒いて着々と準備がすすむ)

農業法人紹介シリーズ⑦
(農)「カミネファーム」

1 法人の概要〈熊谷市上根（旧妻沼）〉

平成24年4月に代表である長島氏と地区の仲間5人(定年帰農者)とで設立しました。作付面積は、水稻9ha、小麦13ha、大豆2.3ha、ブロッコリー0.3ha、ねぎ0.06haで米麦大豆が主体です。



1人で出来ないことも、集まれば楽しくできる

2 設立の経緯

法人のある上根地区は、福川に囲まれ、まとまりのよい地域です。しかし、高齢化により、耕作ができずにやむやむ遊休農地化していく地区の状況を見るに堪えず、地区の農地を守りたいと法人化を決意しました。

1人だと、今日中にしようと考えていた作業を明日、明後日と延ばし、結局できずに終わってしまいがちですが、みんなで集まれば、わいわいと話しながら、何とか、予定どおり農作業を完了できるのが大きなメリットだと感じています。

3 法人の特色

法人は、施設・機械をほとんど所有せず、個人所有の機械を法人が借りて農作業を行っています。米麦大豆の乾燥調製は、すべてJAくまがやのライスセンターで行い、JAに出荷しています。

野菜も同様に、機械を所有しなくともできる品目を選択し、ねぎは、「泥ねぎ」で出荷するなど工夫をし、コストを極力抑えるようにしています。

組織運営は、定例会を毎月25日に設定し、意見交換や、作業時間に基づく精算をしています。

4 今後の抱負

全体の作業日程調整は、代表が行っていますが、将来的には、米、麦、野菜と各部門別に責任者を置き、各責任者による部門間の調整ができるようにし

たいと考えています。

また、現在の定年帰農者の活用から、一歩進め、新規就農希望者等の若い人材を雇用できるように、農業所得の向上を目指していきます。

農薬の適正使用で
安全・安心な農産物を生産しましょう！

埼玉県食品安全局において、県内産野菜の安全・安心確保に向けた取組として、本年度から直売所野菜の残留農薬検査を行う「県内産野菜の残留農薬スクリーニング検査」を実施しております。

本検査では、公定法の1/10の量(100g)でスクリーニング検査を行うため、これまで1kgの確保が難しかった農産物直売所で販売している少量多品目の野菜の検査が可能となりました。

野菜から基準値を超える農薬が検出された場合は、直ちに生産者及び直売所に対し出荷・販売の自粛を要請し、生産現場の調査を行い、原因の究明及び適正な農薬使用の指導を行います。

1 本年の検査実施状況（7月末現在）

- (1) 検査数 40品目123検体（1検体当たり150種類の農薬成分を検査）
- (2) 検査結果
 - ・117検体は、問題がない値でした。
 - ・6検体で、農薬取締法に基づく適用外使用の疑いがあり、うち1検体は、食品衛生法で規定する農薬の残留基準を超える値の検出がありました。

表1 検査結果と対応

品目	農薬	調査理由	原因	当該農産物への対応
ほうれんそう	EPN	適用外使用	ドリフト(推定)	出荷終了済み
ふき	フェニロチオン	適用外使用	ドリフト(推定)	出荷終了済み
こまつな	ピリダベン	適用外使用	農薬散布機の洗浄不足	出荷終了済み
ししとう	エトフェンブロックス	適用外使用	使用対象農産物の誤認	全量自主廃棄
しゅんぎく	フェニロチオン	適用外使用 基準値超過	隣接する畑からのドリフト	全量自主廃棄
ピーマン	テブフェンピド	適用外使用	農薬散布機の洗浄不足	全量自主廃棄

2 農薬使用時には次のことに気をつけましょう

- (1) ラベルをきちんと確認し、使用基準を守る。
- (2) 防除日誌をつける。
- (3) 農薬は、鍵のかかるところで保管する。
- (4) 近隣への農薬飛散(ドリフト)に気をつける。
- (5) 農薬散布機の洗浄を十分に行う。

気象災害(台風・大雨・大雪等)に備えよう！

竜巻や記録的な大雪を始め、大型台風・集中豪雨、突風の発生など、近年気象災害が多発しています。被害の未然防止に向けて事前対策の徹底と気象情報の収集に努めましょう。

【災害時の情報発信と情報収集】

大里農林振興センターでは、台風、大雨、大雪等による農業災害の発生が心配される場合、事前と事後の「技術対策資料」を作成して、市町、農協、産地市場等の関係機関にメール及びFAXで通知しています。「技術対策資料」は、大里農林振興センターのホームページにも掲載して情報発信を行っていますので、ご覧ください。

また、農業災害の実態を迅速に把握し、対策を立てるため、市町、JAと連携して情報収集を行うとともに、大里農林振興センターが委託している情報農家64人（熊谷市29人、深谷市29人、寄居町6人）の協力を得て、災害情報の収集に努めています。

【災害対策】

1 台風・大雨

近年は、台風による大雨に加え、活発な前線の影響で、今までに経験したことのない大雨がゲリラ的に発生しています。

ゲリラ豪雨は、現在の予報技術では正確に予測することは困難です。梅雨末期や台風の季節には、日常の天気予報に気をつけるとともに、テレビやラジオ、インターネットなどで最新の情報を確認することが、被害を抑えることにつながります。

大雨などが、予め予測可能な場合は下記の対策を講じましょう。

- (1) 浸冠水が懸念されるほ場では、ほ場周囲の排水路の点検や整備を行い、速やかに排水できるように備えます（写真1）。



写真1 ねぎほ場の排水対策の事例（うね溝の端がほ場周囲の明きよに繋がっている）

大雨後、冠水または浸水したほ場は、速やかに排水します。



- (2) 台風通過後は、風雨により作物が損傷を受けているので、病害の発生を防ぐため、速やかに薬剤防除を行います。

2 長雨

前線の停滞等による長雨は、ほ場の浸水や滞水を引き起こし、作物の根腐れや軟腐病、発芽障害等の原因となります。また、ほ場に入れないことで収穫作業や植付作業の遅延を招きます。

作付前の対策として、以下のような取組が有効です。

- (1) セスバニア、ソルゴー等の緑肥作物のすき込み（土壌の物理性改善）。
- (2) 暗きよの施工やサブソイラ、プラソイラの施工（土壌の耕盤破砕による透水性改善）。

表1 暗きよの工法と効果の目安

工法	耕盤層対策	排水対策	商品例
心土破砕	○～◎	△～○	サブソイラ
広幅型心土破砕	◎	○	プラソイラ
もみがら暗きよ	◎	◎	モミサブロー
弾丸暗きよ	○	○	振動サブソイラ、弾丸暗きよ

効果 ◎>○>△ （出典・北海道中央農試）

3 見回り時の注意

人命第一の観点から、ほ場の見回り等については、気象情報を十分に確認し、大雨や強風が治まるまでは行わないようにしましょう。

また、大雨等が治まった後の見回りにおいても、増水した水路やその他の危険な場所には近づかず、足下等、ほ場周辺の安全に十分に注意し、転落・滑落事故に遭わないよう慎重に行ってください。

見回りの際には、家族に行く先と帰宅予定時間を告げてから出かけるようにしましょう。

【パイプハウスを守るために】

1 補強対策

雪害に強いハウスの構造は、①単棟ハウスが望ましい。②パイプ径は22mm以上、③パイプの間隔は45cm以下が歪みにくい事等が県の調査で分かりましたが、以下のような対策も有効です。

(1) タイバーによる補強

タイバーを設置することで風への耐力や雪積強度が向上します。設置にあたっては、軒から1/4の高さの位置に、4スパンに1か所程度の間隔で取り付けます（写真2）。

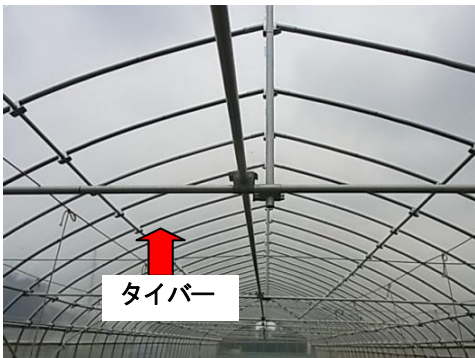


写真2 タイバーによる補強

(2) 筋交いによる補強

筋交いは、ハウスを剛強に固め、耐力を向上させます。設置場所は、妻面4隅やハウス中央部が望ましく、各アーチパイプと部品等で固定し、下端部は地面に30cm以上埋めます（写真3）。この他に、X字型の斜材や方杖を設置すると強度が増します（写真4、5）。



写真3 筋交いによる補強

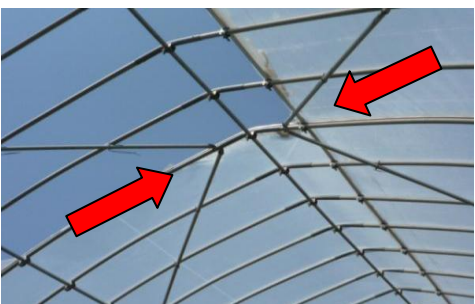


写真4 X字型の筋交い補強



写真5 方杖（ほうづえ）による補強

(3) 根がらみによる補強

根がらみとは、地際下に、「根がらみ直管」と「各アーチパイプ」を部品等で固定した補強のことです。

建築直後のハウスは、地盤が落ち着いていない場合もあるので、強風による浮き上がり防止対策としても有効です。

(4) その他の対策

- ・ アンカーや外部補強金具などの設置。
- ・ 妻部への防風ネットの展張による補強（図1）。
- ・ 隙間のできやすい部分やめくれやすい部分をスプリングやパッカーで固定（図1）。

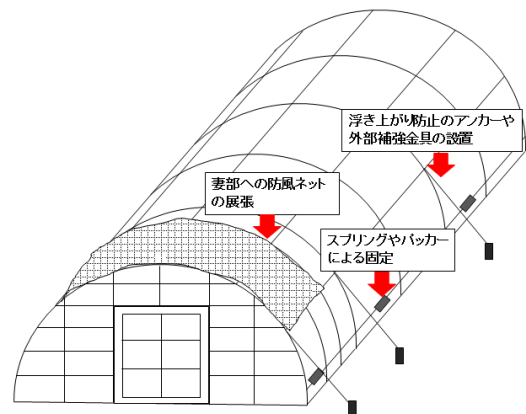


図1 ハウスの浮き上がり防止対策

2 台風の接近や大雪が予想される時には

ビニル等被覆フィルムの破れや、隙間がないか点検し、必要に応じて補修します。

ハウスバンドや被覆フィルムの留め金、ブレースなどの緩みがないか点検し、調節する必要に応じて、筋交い、補強支柱を入れ補強します。ハウスの開口部を全て閉め切り、風が入らないようにしましょう。

暖房機や燃油残量、電気配線等を確認し、燃油残量が少ない場合は、補充しておきます。

なお、強風による飛来物によって、被覆フィルムが損傷しないように、日ごろからハウス周辺の整理整頓を心がけましょう。

3 日常点検とメンテナンス

構造のゆがみ、被覆フィルムの破れや隙間、サビや腐食、金具の緩みなど、普段から点検し、必要に応じて補強しておきましょう。

ハウス周辺の排水路を整備し、湿害対策と基礎部分の軟弱化を防止しておきましょう。

補強対策の事例は、埼玉県農業支援課作成「大雪による園芸用ハウスの被害調査結果と対策」及び一般社団法人 日本施設園芸協会作成「平成26年2月の大雪被害における施設園芸の被害要因と防止対策」などを参考にしました。

インターネットでの情報の入手先

大里農林振興センターホームページ

<http://www.pref.saitama.lg.jp/soshiki/k15/>

「大雪による園芸用ハウスの被害調査結果と対策」

<http://www.pref.saitama.lg.jp/page/housuchousa.html>

「平成26年2月の大雪被害における施設園芸の被害要因と対策指針」

<http://www.jgha.com/shiryuu.html>

気象庁防災情報

<http://www.jma.go.jp/jma/menu/menuflash.html>

<降雪に対する園芸用ハウスのチェックリスト>

項目	チェック項目	チェック欄	備考
降雪に関する気象情報がでたらチェックしましょう。	1	屋根被覆材の表面に滑落を妨げるような突出物の撤去	防虫・防風ネット、遮光資材等
	2	ブレース、ボルト等の締め直し	補強資材や固定部品のチェック
	3	暖房機の燃油残量等の確認	電源、配線、給油配管等
	4	ヒートポンプ室外機周辺のチェック	室外機が雪に埋まらない対策を講じる
	5	ハウス周辺の排水路の整備	除雪・融雪等による湿害対策及び基礎部分の軟弱化防止
雪が降り始めたら降雪時の対策を確認して作業に入りましょう。	1	雪が積もったら速やかに雪下ろしを行う	雪が積もり始めると滑落しづらい
	2	ハウスサイドの除雪	屋根雪とハウスサイドの雪がつながり、落下しなくなる
	3	ハウス両側を均等に除雪	ハウスの片側に偏って積雪すると倒壊の危険が増す
	4	暖房機の稼働、カーテンの解放による屋根雪の滑落促進	室温を高め、屋根雪の滑落促進
	5	暖房機未設置のハウスはカーテンを開放し、地熱の放射による屋根雪の滑落促進	室温を高め、屋根雪の滑落促進
	6	ヒートポンプ室外機周辺の除雪	室外機が雪に埋まると機能しない
	7	ハウスの屋根に積雪がある場合は中に入らない	施設倒壊の恐れがある

<台風・風害に対する園芸用ハウスのチェックリスト>

項目	チェック項目	チェック欄	備考
台風に関する気象情報がでたらチェックしましょう。	1	ハウス周辺の整頓	飛ばされる恐れのある物を置かない
	2	被覆フィルムのたるみや破れ、骨材のさびや腐食の補修	破損しやすい所を補修・補強する
	3	風が吹き込むことが予想されるすき間をふさぐ	天窓、サイド部分、出入口等
	4	ハウスバンドや被覆フィルムの留め金、ブレース、ボルト等の締め直し	補強資材や固定部品のチェック
	5	暖房機や電気配線等の確認	電源、配線、給油配管等
	6	ハウス周辺の排水路の整備	湿害対策及び基礎部分の軟弱化防止
台風が襲来する直前にチェックしましょう。	1	防風ネットや補強器具の設置	妻面の補強、浮き上がりや変形を防ぐ
	2	開口部をパッカーやかんぬき等で固定	天窓、サイド部分、出入口等を固定
	3	不必要な電源は遮断	浸水によるショートや漏電を防ぐ
	4	換気扇の稼働	内部を負圧にし、被覆材のバタつきを防ぐ
	5	強風時にはハウス中に入らない	施設倒壊の恐れがある

●人命優先で、危険な状態では作業を行わないこと

平成27年度 埼玉県農業大学校学生募集

募集定員

学 科	定員	90名
野 菜	30名	
水田複合	5名	
花 植 木	15名	
酪 農	5名	
短期農業	35名	

出願期間・試験日・合格発表

学 科	入試区分	出願期間	試験日	合格発表
野 菜、水田複合 花 植 木、酪 農	推薦入試 (指定校 推薦入試)	H26.10.1~10.14	H26.10.27	H26.11.6
	一般入試	H26.11.10~11.20	H26.12. 5	H26.12.18
短期農業学科 (短期野菜専攻)	一般入試	H26.11.10~11.20	H26.12. 5	H26.12.18
短期農業学科 (有機農業専攻)	一般入試	H26.11.10~11.20	H26.12. 5	H26.12.18

試験方法

学 科	入試区分	試験方法
野 菜、水田複合 花 植 木、酪 農	推薦入試	小論文・面接
	一般入試	国語、数学 I、小論文、面接(ただし、短期農業学科(短期野菜専攻)は小論文と面接のみ) *野菜、水田複合、花植木、酪農学科受験者で、日本農業技術検定3級以上取得者は国語、 数学 I が免除されます
短期農業学科 (短期野菜専攻)	一般入試	小論文・面接・事前提出「自分の行う有機農業について(経験と目標)」を2,000字程度にまとめたもの
短期農業学科 (有機農業専攻)	一般入試	小論文・面接・事前提出「自分の行う有機農業について(経験と目標)」を2,000字程度にまとめたもの

* 入学願書は、大里農林振興センター、農業大学校で配布しております。

若い農業者組織紹介 (シリーズ②)
ふかや4Hクラブ

ふかや4Hクラブは、深谷市内の青年農業者で集まった自己研鑽を目的とした組織です。現在、米麦・野菜・花・畜産など様々な経営の13人が所属し、地域内外での交流・情報交換や課題解決活動(共同プロジェクト活動)、深谷市産業祭への出店等、年間を通して活動しています。

会長の鈴木さんは、魅力ある4Hクラブを作り、新規クラブ員を増やしたいと語ります。今年の活動は、野菜の予約販売をテーマに、12月からのねぎ販売に向けて試行錯誤しています。

将来を担う若手農業者の活躍に期待しましょう。



施設園芸経営技術研修会
(雪害からの復興に向けて)

大里農林振興センターは、2月の大雪による被害が県内で最も大きい深谷市の施設野菜農家を対象に、8月27日に「施設園芸経営技術研修会」を開催しました。

この研修会は、円滑な営農再開と経営改善を支援することを目的としたもので、施設野菜生産者を中心に約100人の参加がありました。

研修会では、気象災害に強いハウスの構造や補強のポイントなどを説明したほか、施設再建までの経営補完作物の導入や炭酸ガス施用などの施設園芸技術に関する最近の動きについて情報を提供しました。

また、西田税理士を講師に、共済金や補助金に関する税務申告の方法、補助事業で導入した施設の減価償却の方法などの研修を行いました。

参加者からは、「気になっていた税務申告の方法について分りやすく説明していただいたのが良かった。」「今後の営農再開に向けて貴重な機会となった。」などの感想が聞かれました。

左写真 深谷ねぎでガッチリ、ガッチリ!!
ふかや4Hクラブ員
(7人写っていますが、本当は13人です)